令和４年度第２回神戸市発達障害児（者）支援地域協議会代表者会　議事要旨

日時：令和５年２月２日（木）18 時～
場所：中央区文化センター11 階 1103・1104 会議室

１．議題

（１）提言に関わる事業の取り組みについて

（２）主な事業の状況について

① 神戸市療育ネットワーク会議での検討内容について
② 特別支援教育相談センターについて
③ サポートブックの普及・啓発について
④ オンラインプラットホームを利用した大学生の支援について
⑤ 思春期・青年期居場所事業「ヒュッゲ」
⑥ 令和４年度障がい理解の促進にかかる取り組みについて
⑦ 大学生向け就活プレセミナーについて
⑧ 令和５年度からの障害者雇用率の設定等について

２．主な意見

・神戸市ホームページ掲載情報について、例えば、通所支援事業所ガイドを知らない方が神戸市ホームページから検索しても、うまく目的のページにたどり着けない。検索する側の目線でホームページを構成してほしい。

・地域の資源につないでいく必要性について、診療所では地域の資源につなげることが難しい。総合療育センターの福祉職員やケースワーカーが、地域の支援につなげていくことが大切である。

・就労後の支援、就労ジョブコーチと医療の連携について、発達障害の特性として、自分がどう困っているか伝えることが苦手で診療の中だけでは分からないことが多い。職場の状況が分かる発達障害者相談窓口やしごとサポート、ジョブコーチとの連携が容易になるよう、支援体制を充実させてほしい。

・居場所事業のヒュッゲについて、5、6 人の利用ではもったいない。分かりやすいポスターやチラシを各病院や教育機関に配布するというのはいかがか。また、15 歳以上であればひきこもりの子や不登校の子もいると思うので、そのような関係機関にうまく PR することが必要だと思う。

・「就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」について、私立幼稚園連盟の子育て相談室の室長をしているが、この検討会議とうまく連携が取れないかと思っている。保護者から様々な相談を受けているが、この検討会議に保護者の声は全く届いていないと思う。同じ神戸なのでうまく連携が取れないものか。

・個別の就学相談について、利用された方の意見を聞き、フィードバックして今後に役立てていくこと、また、それを支える保育所、幼稚園、児童発達支援事業所との連携をどう考えていくかが大事だと思う。

・不適切な保育について、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスが増えている中、適正な指導や第三者的な機関が機能しないと、様々な問題が起こりやすい状況だと思う。そういった問題への対応例があれば教えていただきたい。
・障害者雇用率の設定について、支援の必要な人たちにとっては大きな歩みであるが、実際に就労された方からは、職場では自分を理解してもらえず非常に困ったという相談も受けている。今後、ハローワークのジョブコーチの役割が非常に大きくなってくると思うが、ジョブコーチを増やすなど、様々な形で支援できる体制をつくっていかないといけないと思う。
・就労支援事業者側の意見として、ジョブコーチについては、受け手側のほうもジョブコーチを望まれているところと、ジョブコーチに入られると困るというところがあり、ジレンマを感じているところである。ただ、定着に向けての支援は非常に大事なことだと思っており、しごとサポートや障害者就業・生活支援センターに登録していただき、就労定着に向けた支援をしていくというようにしている。
・受入側の企業でも、精神障害者や発達障害者を受け入れるにあたり、理解度を高めていただくことが必要である。ハローワークでは、サポーターの養成ということで、集合型の講習や、企業からの要望に応じた出前講座も実施しており、理解を高めていただく取組みを行っている。また、本人同意のもと就労パスポートの提供などを通じて、相互の理解を深め、定着が続くような取り組みも行っている。
・居場所づくりについて、バーチャルでの関わりが受け入れやすい方もいるとは思うが、人と直接関わる場面を求めながらもうまくいかずに悩んでいる方も多くいると思う。関われる人を増やしていくための支援が必要な方もいるのではないかと思う。
・就労について、特別支援学校から就職すると相談支援を全く使っておらず、5、6 年経って不適応を起こしたときに、特別支援学校の先生もいないため相談できず、改めて相談支援事業所と契約するということがある。また、大学生で相談支援事業所等を使って就職しても、自分のことを分かってもらえない、障害者として就職しているのに配慮されないという話を聞くこともある。先程、ジョブコーチの話もあったが、定着率が高くなるような形を考えてほしいことと、本当に駄目であったときは、転職をサポートするということも必要ではないかと思う。
・賃金について、障害者雇用のため、最低賃金にとどめられていることが多いが、安い労働力として使うというやり方はよくないのではないか。障害者雇用で入っても一般雇用に進めるような会社があるようだが、雇用の質というものを考えないといけない時期にきているのではないかと思う。
・兵庫障害者職業センターは、11 名の職員で県下全域を見るのは難しい状況のため、各地域の就労関係機関のジョブコーチと連携しながら支援を行っており、ナチュラルサポートという形で会社の方に理解していただくよう、当センターのカウンセラーが事業所に出向き、障害特性等の説明を行っている。
・就労移行支援事業所によっては、就労後半年を経過した後の定着支援をしているところとしていないところがあり、最近開設された就労移行支援事業所では、半年後以降は障害者

就業･生活支援センターやしごとサポートへの登録を促していることが多いと思う。ただ、登録後も、就労定着という制度的なものはないが、少しでも長く勤めていただけるよう支援を続けている。また、転職された方の支援も非常に大事なことだと思う。ただ、そこから支援機関との付き合いが長くなるという現実がある。

・放課後等デイサービスの巡回支援を行っていて気が付いたことは、現場の職員が個別支援計画の作成ルール等を全く分かっておらず、監査指導部の適正なアドバイスや指摘を受けていることである。今、社会福祉法人以外の色々な事業者が入ってきていて、現場が混沌としていることがよく分かった。今回の巡回支援は、事業所には刺激になっていると思うので、就労移行支援事業所等に対しても神戸市独自で取り入れていただくよう検討してほしい。

・子どもも大人も、発達障害に関する社会的な認知や理解が大事かと思う。医師会としても、子どもの時に早く診療できる医療機関につなげるよう、かかりつけ医研修にもっと参加するべきかと思うし、大人になってから困られている方にもかかりつけ医としてできることがあると思う。

・就学相談について、就学前健診の最後の 11 月頃に保護者からの相談が多いので、春の相談会に参加できない方に対しては、秋までにも就学相談があればいいと思う。

・大学生支援やヒュッゲについて、参加した方の声や様子が映像で事前に分かれば、これであれば行けると思う方もいるのではないか。兵庫障害者職業センターの就活プレセミナーについても同様に、どんなことをしているのかが分かるような工夫ができれば、参加者が増えるのではないかと思う。

・不適切な支援について、支援する人の質の問題もあるが、発達支援を提供する場所、福祉サービスの報酬の対象としてどうなのかという活動をされているところもある。預かりだけになっていたり、学習塾的な内容になってしまっていたり、ソーシャルスキルを学ぶのではなく、ただレジャーに行っているというのは問題だと思うので、今度、どのように改善されるのか、巡回支援の時等に指導していただきたい。

（閉会後に事務局に寄せられた追加意見）

・神戸市だけではないが、発達支援の状況は、「ニーズの拡大」「問題の複雑化・多様化」であり、その中でも人的資源の開発と活用が急務だと感じている。

・市全体として、障害児支援に関われる人の養成や、専門職、ボランティアも含めた人をどう発掘するのかが、中長期的な視点で必要と感じた。

・発達障害の子で、放課後デイ等を利用せず大学まで進んだ段階で就職ができず、就労移行などの福祉サービスにつながることも多いと思う。わざわざ相談窓口に行くほどではないが、少し心配ということが、小学校高学年から中学生くらいで出てくることが多い。早いうちからつながって必要な子育ての対応ができるのが望ましいと思うので、出張サービスと研修も兼ねて、区役所の会議室に定期的な相談場所・時間を設けてもらいたい。

・放課後デイについては、保護者側の評価が行政に伝わる仕組みがあるか。